

1 学校経営ビジョン	<p>令和4年度スローガン「築け 地域との新たなつながり 拓け 学校の可能性 照らせ 生徒の未来」</p> <p>コミュニティ・スクールとして地域資源を学びに取り入れ、総合学科の特色を活かした教育を実践し、社会や地域に貢献できる人材の育成を目指す</p>
2 目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人ひとりに寄り添い、全職員で支援する体制の整った学校 ○ 新しい教育に挑戦し、学力の定着を図り、生徒の望む進路を実現できる学校 ○ 地域に開かれ、地域に愛され、地域の生徒が通いたいと望む学校

3 本年度の重点目標	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 指導力・専門性の向上 (3) 特色・魅力ある学校づくり</p>
------------	--

重点目標	具体的取組	評価項目	具体的取組又は達成状況	自己評価	評価	学校運営協議会評価 及び 意見
基本的な生活習慣の確立	生徒理解と支援のための教育相談体制の充実	いじめ・不登校対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が発生した都度、実施（不定期） ・ 管理職、年次主任、担任及びカウンセラーによる情報共有 ・ 早期対応による生徒支援 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業が発生したときに対応するための「委員会」開催だけでなく、未然防止を視野に入れた日常的な生徒指導体制の確立が望まれます。過去の事例に学ぶ「ケース会議」（事例検討会）の開催等は早期対応を実行あらしめるものにするのだと思われま。現在の子どもたちは、程度の差こそあれ「愛着障害」の傾向にあると指摘されています（昨年度詳述）。「生徒一人ひとりに寄り添い、全職員で支援する体制の整った学校」であるためには、生徒の日常をしっかりと把握することこそが大切であると思われま。 ○ 教育相談にしろ、人権学習にしろ、一定の週間や時間に限定しないで、日常的に取り組む姿勢の構築が望まれます。いわゆる指導の日常化です。 ○ いじめ等については、情報を共有し見守ってあげる体制づくり・教職員一体となつての組織づくりが大事だと思います。 ○ 生徒や保護者からの相談に親身になって対応していただきたいと思つています。 ○ 進路等の相談は、生徒の人生に大きく影響することなので適時・適切な指導や助言をお願いいたします。 ○ 自分や他人の人権について正しく理解していくことが非常に大切だと思つてますので、今後も十分に取り組んでみたいと思つてます。 ○ いじめの認知件数や解決の割合が気になるところです。 ○ 自己評価から、事業に対する情報共有、早期の対応がうかがえます。 ○ いじめを受けているサインの早期発見、見守りの体制づくりが大事と思つてます。 ○ お互いを認めて尊重する姿勢を教育の中で刷り込むことが、成人してからのハラスメントの抑止につながるのではないのでしょうか。
		教育相談週間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学期の初めに授業短縮を行い、放課後の時間の十分に確保した上で1週間程度設定 ・ 生徒の悩みや相談を迅速に集め、対応することが出来た 			
		人権学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次6回、2年次3回、3年次2回実施 ・ コロナ対策として、一部リモートによる講演で実施 			
読書活動の推進	朝の読書		<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎朝10分間の読書を実施。 ・ 年間4回の絵本の読み聞かせを実施 ・ 担任、副担任による読み聞かせ（2回） ・ 図書委員（生徒）による読み聞かせ（1回） ・ 図書部職員による読み聞かせ（1回）予定 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の読書の蓄積が奇跡的に生徒を変容させていくことは、既に多くの学校の実践事例によって示されています。まさに「継続は力なり」です。ところが、読書離れが進む今日、PISAの結果が物語るように、我が国の子どもの読解力の低下が深刻度を増しています。そこで、昨年度に続いて再度提案します。ぜひ「ブックトーク」を導入して欲しいと思つてます。 ○ 読解力の低下はコミュニケーション能力の低下をもたらしています。表現力を向上させるためにも「ブックトーク」の導入をぜひ検討して欲しいと思つてます。 ○ 活字離れが進んでいるので、読書の習慣化は大変良いことだと思つてます。 ○ 効果が知りたいところです。 ○ 前年度と比較すると、それぞれ回数が増えているが、減少の理由は取組方針の変更なのではないでしょうか。 ○ 読書をおして知識欲の向上、視野が広がることから、将来やりたいことが見つかるきっかけにつながるものと思つてます。
		生活習慣の確立支援	規範意識の醸成			
生活習慣の確立支援	規範意識の醸成	学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業において相互評価を実施 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校にお邪魔したときや街中で会ったときに、明るいあいさつを返してくれる生徒さんが増えた感じがします。 ○ 規範意識は受け身では育たないと思われま。生徒の主体的な自覚が必要です。生徒の主体性は個々の生徒の自信から生まれます。年次集会等の機会を捉えて生徒の成功体験を発表させてみては如何でしょうか。容儀検査や「立腰指導」も大切ですが、生徒や教職員の前で部活動の入賞体験などを語ることは大きな自信に繋がるものと思われま。 ○ ルールやマナーを守った学生生活を送ることは、社会人になつても大事なことなので、生活習慣の確立を支援することは意義あることだと思つてます。 ○ 校則として文章にはなつていないが、担任による行き過ぎた指導がないこと、認識のズレがないことを願つております。 ○ 前年度に引き続き自己評価が低いようです。次年度の対策を検討する必要があるのではないのでしょうか。 ○ 規範意識は、家庭での基本的な生活習慣をもとにしての学校での教育が大事と思つてます。
		美化意識の高揚	部活動生の朝清掃と挨拶運動			
美化意識の高揚	部活動生の朝清掃と挨拶運動	清掃指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての清掃区域に職員を配置し、率先垂範で生徒と共に活動 ・ 清掃時間に各学年主任は、固定した清掃区域を割り当てず、校内美化指導の監督として巡回指導 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別活動の学校行事の内容の一つに「勤労生産・奉仕活動」があります。清掃区域の範囲を広げ、「勤労生産・奉仕活動」の一環として、学校周辺の「ごみ拾い」を設定してみても如何でしょうか。「地域とともにある学校」の面目躍如となるのではないかとと思われま。 ○ 部活以外での活動も成績に影響することなので、清掃作業を継続してもらい、本庄高校の伝統にしてみたい。 ○ いつもきれいな学校で、気持ちの良い挨拶のできる生徒達に感心しております。 ○ 校内で培った美化意識や実践力が登下校中、バス停などで自然にゴミを拾うなどの汎用的な力となっていると思つてます。 ○ 取り組みに対し、地域住民からも高い評価を聞いております。 ○ 組織の中で、気持ちのいい挨拶のできていない部署は、どんな研修・指導をしてもモチベーションが上がらないようです。 ○ 気持ちの良い挨拶が自然と口から出てくる生徒が多く好感が持てる。校外でも率先して行って欲しいと思うが、色々な事案があるので難しいところもあるのかな。
		指導力・専門性の向上	基礎学力の定着指導			
「サクセスタイム」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部教材を活用して毎日6限目終了後に実施 ・ 基礎学力の定着及び文字力・計算力等の強化 					
GTZ（学力到達ゾーン）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎力診断テストにおいて、1・2年次とも「国語」が向上傾向 ・ 2年次において、国数英のD3ゾーン（低学力ゾーン）が減少 					
系列の専門性の向上	コミュニティ・スクール事業、校外活動等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の教育資源の活用例 【食農】スイーツ製作、ホースセラピー、白玉饅頭製作 【商業】本庄高校マルシェ 【生文】テーブルマナー講座、保育講座、フラワーアレンジ講座 家庭クラブ料理講習、歩き方講座 他 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校の卒業式、入学式に際して、本庄高より鉢植えの花を購入させていただいています。毎年、大変助かっています。有り難うございます。 ○ 望ましい方向に動いていると思つてます。地域の教育資源を活用し、生産物や制作物を通じて地域とふれあい交流することも総合学科の使命だと思つてます。 ○ 地域の資源を活用することで、本庄高校を取り巻く産業・経済を知ってもらいたい。

				<ul style="list-style-type: none"> ○時代やニーズ・目的に応じていつかスクラップし、新しいものにシフトしていく時期を見失わないようにしてほしいです。 ○地域に存在する多くの資源を教育に活用し、地域住民・企業等が協力支援することで、教育活動の充実及び地域の教育力の向上につながっていると思います。 ○地域資源を活用は、地域の活性化、将来の後継者育成につながるのではないのでしょうか。 ○いろんな講座を開かれていて生徒達にもいい体験だと思う。地域の活性化にもつながる。また、ホームページにも載せており情報発信になっていると思う。
検定合格・資格取得の充実	検定合格・資格取得状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日本農業技術検定 5名/22名受験 (R3:7名) ・全国高等学校家庭科技術検定三冠 2名/4名受験 (R3:4名) ・ビジネス実務検定 3級 20名/30名 ・漢字検定 3級 5名 (R3:6名)・準 2級 3名 (R3:3名) 2級 1名 (R3:0名) 	2	<ul style="list-style-type: none"> ○先生方の献身的な指導あつての成果だと思われます。益々の健闘を期待するものです。 ○受験者数が少ないと思います。多くの生徒がチャレンジするものが何かないのでしょうか。 ○他の検定、資格、おもしろそうなコンクールにも積極的にチャレンジしてほしいところ。アイデア・知見の豊富な教職員の腕の見せどころだと思います。 ○進路目標達成率のように割合を示してほしいです。 ○自己評価が低いが、継続した支援が学校の魅力とレベルアップにつながっていると思います。 ○様々な資格取得を目指すことは、様々な分野の(勉強の)入口になります。入口を学ぶことは、一生の基礎となります。
進路目標達成	進路目標達成率	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率 95% (R5.1月末時点) ・県内就職率 95% (昨年度 96%) ・進学は、宮崎産業経営大学 (2)、福井工業大学、東京女子体育大学 神戸芸術工科大学、大阪商業大学、創価大学 他 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○地元の大学の教育力を本庄高校に生かすためには、高大連携の視点から共通のテーマを設定した取り組みを企画することも考えてよいのではないのでしょうか。そういう形で大学と交流を深めていけば、進学者の増加にもつながるものと思われます。 ○また新たに「本庄学」の新設が構想されているようですが、例えば「総合的な探究の時間」の内容として推進するなど、必ず教育課程に位置づける必要があります。100%近い数字でよく頑張っていると思います。定住人口を確保するために町内・県内での就職・進学を進めてもらいたいです。 ○個に応じたきめ細かな指導の賜物と思います。 ○目標達成に向けた努力がみられ感謝します。 ○的確な進路指導をいただいた先生方に今でも感謝しています。いろいろな進路を示していただきますようよろしくお願ひします。
	公務員指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員 1次 7名中 4名合格 (昨年度 10名中 9名合格) ・国保連、海上保安学校、宮崎県警、近畿刑務官に内定 		
教職員の授業力向上	校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教職員が「ICTを活用した授業実践」をテーマにし、研究授業を実施 	2	<ul style="list-style-type: none"> ○本庄中1年生は、本庄高校公認チューターの高校生からの情報モラルに関するワークショップを受けさせていただいた。高校生のリードのもと、中学生も楽しく真剣に参加することができた。情報モラルの学びはもちろん、ふるさとを大切に地元の高校として活躍する先輩の姿をみることで、進路指導やキャリア教育にも大変意義があると感じる。今後も高校生とふれあえる取組があると有り難いです。 ○教員免許更新制度が撤廃されてから、教員研修は一人ひとりの教員の主体性が重視される形になりました。令和5年度からは「宮崎県教員育成指標」も改訂されます。 ○教員研修の目的は、中教審答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」に示されているごとく、教職員の指導力向上にあります。「個別最適な学び」を保障するためには、研究成果を評価しつつ全教職員が一丸となって生徒に向きあい寄り添うことをおいて他にはないと思われれます。 ○ICTを活用した授業を行う先生方の準備や苦勞も多いことと思います。 ○教員のICT活用指導力の向上を目指してほしいと思います。 ○「主体的・対話的で深い学び」における課題解決のために、「課題自体が自分事となっているか?」「課題発見力をどの程度重視しているか?」気になるところです。 ○評価が低いが、すべての教職員が努力されていると思います。今後も各自のスキルアップをお願いします。
	ICTを活用した授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次生全員に、PC (chromebook) を購入させ授業等で活用。次年度の新1年生にも購入させる予定 ・コロナウイルス感染者及び濃厚接触者などの出席停止の生徒に対しオンライン授業の配信 ・パソコンやプロジェクターを使った授業の展開 ・Google のソフト (クラスルーム) を活用した課題の配付 		
特色・魅力ある学校づくり	学校運営協議会制度の活用	「本庄ひなたLABO」	3	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会が開催されるたびにお世話になっています。コミュニティ・スクールの要として、効果的な活用がなされていることを嬉しく思っています。 ○本庄ひなたLABOの存在を知らない方が多い。 ○地域や学校外の方が気軽に利用できる場として、どんな成果物があるか、掲示や発信ができるかと良いかと思ひます。 ○次年度は、コロナ禍の収束により外部利用者が増加することを期待します。
デュアルシステムの実践研究	アンケートの結果	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度から実施したデュアル実習の協力事業所約140社 ・2年次生 83名全員参加。実習期間は10日間 ・事後アンケートにおいて、生徒の95%以上が「成長できた」と回答 ・協力事業所の85%以上が、「次年度も実習を受け入れても良い」と回答 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○デュアルシステムは、総合学科本庄高校の大きな特色であり、いわば総合学科本庄高校の「顔」だと思ひます。生徒だけでなく地元企業の評価も高いようです。 ○昨年度提言したように、将来的にはドイツとの交流等も含めて大きな視野に立って益々充実発展させていって欲しいものです。 ○長期間の実習を受け入れていただいた協力事業所に感謝です。 ○生徒にとっても大きな成果があり社会人になる心構えもできて、大変意義あるものと思ひます。 ○事後アンケートで「成長できたか」も大切ですが、「何を身に付けたか」(資質・能力ベース)で説明できると説得力が増すと思ひます。 ○デュアルシステムの成果を評価したい。 ○社会人になるころがまえもできて、大変意義のあるものだとおもひます。
部活動とボランティア活動の推進	部活動・同好会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・加入率の向上: 71.2% (R3:67.5%) ・運動部合同7ツ加トレーニング 3回実施 ・馬術部 (個人) 全国選手権大会 小田大 3位 (団体) 全国選手権大会 優勝 九州高等学校馬術大会 4位 ・フェンシング 九州選抜大会男子団体 3位 (3月開催全国選抜大会出場権獲得) ・チームブルーベリー同好会 第5回校内スイーツバトル開催 ・美術部、書道部、音楽部各種コンテスト入賞 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○本庄高生の活躍を新聞やテレビ、町広報等で見聞きする度に、町民として元気をいただいています。 ○部活動・同好会の加入率は、最終的には100%を目標にしたいものです。 ○高校生を対象とした全国規模の大会・コンクールは、体育系の活動だけでなく、詩・短歌・作文など文化面でも幅広く開催されています。その中の一つが、昨年提言した「小村寿太郎顕彰弁論大会」です。これは、国際連合協会が主催する「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」の宮崎県予選会を兼ねて実施されるものです。本庄高校のPRのためにも、是非参加してほしいと思ひます。 ○高岡町穆佐地区は、慈恵会会の創設者であり「ビタミンの父」と呼ばれる高木兼寛の生誕地です。郷土の偉人高木兼寛を顕彰する意味でも、本庄高校としての独自イベントを企画されるのは如何がでしょうか。大きな教育効果をもたらすものと思われれます。 ○馬術部が全国大会で優勝したことは、大変嬉しく誇らしいことです。 ○生徒の7割が部活動等に参加し、実績が積み上がっていくことが楽しみです。 ○馬術部の全国大会優勝おめでとうございます。今回の活躍は町民の誇りであります。 ○部活動の先生や先輩から学んだことは、他では得られない貴重な経験だと思ひます。一人でも多くの生徒に経験していただきたいと思ひます。 ○各部 各同好会素晴らしい結果と思ひます。 ○他校にない部活があることもとてもよいとおもひます。本庄高校の魅力の一つだと思ひます。
	ボランティア活動の参加状況	<ul style="list-style-type: none"> ・活動実績 15回 (のべ275名参加) ・これまで継続して参加していたものに加え、新たな寺子屋学習支援やまんぶく食堂、地域の保育園の行事などにも参加 ・コロナ禍による活動制限のため、全てには参加できず ・地域の祭りや行事にとって本校生徒のボランティア活動がなくてはならないものとして定着 		

					理解した上で行動できる生徒を育成していただきたいです。 ○ふるさとに根ざしたユニークな多様な活動を通して、経営ビジョンの「地域に社会や地域に貢献できる人材の育成」に十分繋がっていると感じます。町民祭でも本庄高生が元気に活動していました。
国際理解教育	国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「アジア高校生架け橋プロジェクト」(文科省)による留学生の受入れ(今年度、インドネシアより1名受入れ) 5年連続、計7名の留学生を受け入れており、来年度もアイスランドからの留学生1名を受け入れる予定 	3		<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育の視点からも、前述したように「小村寿太郎顕彰弁論大会」等への参加をご検討ください。 留学生受入れは、異文化を知ることで生徒にとっては刺激になり大変良いことだと思います。継続的な取り組みをお願いいたします。 幅広い対応力に感心しております。 継続して留学生を受け入れていることが、生徒へ良い刺激を与え向上心の醸成につながっていると思います。 留学生との交流によって異文化を知ることで、自国の文化の再認識に繋がると感じます。
情報発信の充実	戦略的な学校情報発信	<ul style="list-style-type: none"> HP更新 52回(R3:58回) 1日体験入学に中3生名参加 166名(R3:105名) 部活動1日体験入学に中学生 62名参加(R3:43名) 総合学科実践研究発表会に本庄中2年生140名が参観 新聞記事掲載約11回、TV放映約8回 	3		<ul style="list-style-type: none"> 総合学科実践研究発表会に本庄中2年生を参加させていただいた。中学生の総合的な学習の時間の研究発表の参考になったり、本庄高校の雰囲気を感じる機会になったり、進路指導やキャリア教育の機会としても大変意義がある。次年度、本庄中の修学旅行は11月29日(水)～12月1日(金)です。修学旅行と重ならない限り、参加させていただきたいので、開催日程のご配慮をお願いします。 在学が生き生きと活躍する姿が、新聞やテレビなどのマスメディアを通じて発信されることは、中学生やその保護者にとって極めて大きな影響力を持っています。コロナ禍であるにもかかわらず、1日体験入学や部活動体験入学への中学生の参加は、昨年度の比で大きく増加しています。学校情報の発信にはますます注力してほしいものです。 HPブログの更新やマスコミへの発信など積極的に行われていると思います。 学校パンフレットがわかりやすく、すばらしいです。 HPのPR動画の評判が良い。さらに総合学科の魅力を発信するため、HP全体での取り組みをお願いしたい。 今後ともHP等によって魅力的な本庄高校の情報発信をお願いします。生徒たちには、情報発信のルールをご指導願います。 様々なメディアに取り上げられ良いことだと思います。 新しくできた youtuber (chi-kis) の活躍も楽しみです。
その他	PTAとの連携	PTAの活動	2	2.5	<ul style="list-style-type: none"> これからの学校の在り方の大きな目標として「地域学校協働活動」が位置づけられています。特にコミュニティ・スクールである本校は、PTAとの単なる連携だけではなく、PTAとの「協働活動」の視点が重要だと思われます。 コロナ禍での活動は、制約があって思うようにできなかったと思いますので、今後の活動に期待します。 OPTA総会をオンラインで開催されるなどコロナ禍でもできることを探して進めていく姿勢はコロナが収束してもより良い判断や選択に繋がると感じます。目的がより達成されるよう今後もさらなる工夫が必要となっていくと思います。 OPTAとの連携を密にした活動も学校の魅力化につながるのではないのでしょうか。

4：十分達成・期待以上 3：概ね達成・ほぼ期待どおり 2：検討の余地あり・やや期待を下回る 1：不十分・改善を要する



分析及び改善策	<p>【運営協議委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「築け 地域との新たなつながり 拓け 学校の可能性 照らせ 生徒の未来」のスローガンに基づいて、様々な教育活動が実践されていると感じます。素晴らしいです。中学校も頑張りたいと思いますので、ご教示と連携をお願いいたします。また、様々な機会を通して、本庄高の先生方全体の雰囲気がとても明るく、親しみやすさを感じています。ですから、本庄高生も明るく生き生き頑張っているのだと感じます。まさに「教育は人なり」だと感じます。 ○学校運営協議会が運営する学校(コミュニティ・スクール)の基本理念は「地域とともにある学校」とされています。したがって、本庄高校の存立基盤は、地域に開かれた学校として、地域の期待・ニーズに応え続ける学校であることにあります。そこで求められるのは、地域を支える人材の育成です。 ○私は昨年度の本欄で「自校教育」について述べさせていただきました。自校教育とは、自分の学校の創立理念、歴史・伝統など不易の部分をしっかりと受け継いでいく教育です。本庄高校の不易は何か。その共通理解と教職員・生徒・保護者による共有が今後最も必要なことだと思います。 ○総合学科に学科改編後、歴代校長は、学科を改編してもなお維持すべき本庄高校の不易の部分を確定すべく日夜尽力されてきたものと思われれます。自校教育は保守する教育ですから、最も大事なことは「変えない」ことです。変えなければそこに一定の「校風」が形成され、やがてそれは伝統となって生徒を育てる大きな力となります。変えることが許されるのは不易の部分を守るためだけです。 ○高名な歴史学者は「古いという言葉が、悪い、だめになったということと同義語であるのは日本だけである。古いということはいいことなのだ。」と述べています。この古いものはだめだという価値観が、現在この国に広く行き渡っている「変えればよくなる。改革イコール改善」という風潮を生みだしている元凶ではないのでしょうか? ○もう「道具」は出揃ったのではないかと考えられます。後はこれ以上の変化を求めず、今日まで蓄積されてきたものをただひたすら守り続ける「保守する教育」を徹底することのように考えられます。安定を求める教育は、基本的に「過去に向かう」教育です。変えれば不安定になります。繰り返して述べます。変えることが求められるのは不易の部分が危機にさらされたときだけだということを銘記すべきです。 ○様々なメディアに取り上げられる種のまき方が素晴らしいと思います。 ○空き家対策や空き家の有効活用など町の課題に対し、解決の糸口とすべくお年寄りや地域の方に話を聞くような機会も必要かと思っています。 ○これからの時代に合う、これから生きる方々、特に中学生以下の子どもたちを最優先にした学校を目指し、校名変更等、あらゆる手段で魅力化をさらに図っていただきたいと切に願います。 ○本庄高校をさらに魅力あるものとするため、総合学科の特色を活かし、地域住民・行政と連携しながら目標に向かって実践していきましょう。継続は力なり。 	<p>【学校】</p> <p>年3回の会議のみでは、学校運営協議委員の方に学校の評価をしていただくのは非常に申し訳ない部分があった。より本校の実態を伝えられるような資料の提示や、定期的な資料の提供を行う必要があったと感じる。本校のホームページのブログにおいて定期的な情報を更新しているの、更新した時に見てもらえるような手立てを考える必要があった。</p> <p>また、委員からの評価において、重点目標の一つである「本校の特色・魅力づくり」においては高い評価をいただいた。次年度においても今年度を踏襲し更に積極的な魅力づくりを継続していきたい。反面、「学力・専門性の向上」においてはまだまだ検討の余地があると考える。</p> <p>今後は委員の意見を取り入れながら見直しをおこない取り組む必要性を感じた。また、コミュニティ・スクールのモデル校としての多くの取り組みについて昨年度は非常に高評価をいただいたが、今年度は、特に新型コロナウイルスの影響で、予定していた取り組みが実施できなかったことも多くあった。そういった中で、新しいアイデアを出し、新しい形の校内ボランティアを確立できたことは収穫であった。これは本校の、コミュニティ・スクールのサポートスタッフである井戸川先生の功績が大きい。</p> <p>今後も地域と連携し地域資源を活用した取り組みを実施していくことで、地域に信頼される学校になるのではないかと考えている。今後も「地元で活躍し、地元をリードする人材の育成」に向けた取り組みを職員一丸となって実施していきたい。</p>
---------	---	--